



父ヨセフ La Tour

箴言の最初の部分に、「主を畏れることは知恵の初め。」(箴1:7)と、人が一番先に覚えなければならないことは「主を畏れる」ことであると告げています。この言葉は箴言だけでなく、詩編 110:10、ヨブ記 28:28 にも記されています。

「わが子よ」、「わが子よ」と呼びかける父の諭しの声で始まっています。父の諭しに聞き従え、母の教えをおろそかにするなと、優しい親心が溢れます。父から子に告げられています。「子」は欽定訳では son、現代訳では child となっていますが、内容的には、年若い息子が対象です。娘を教育するという考えはありません。

父ヨセフ La Tour 「父の諭し」は9つに分けられています。具体的な事例をピックアップしてみます。

(一)と(五)は呼応して、**ならず者があなたを誘惑してもくみしてはならない**(箴 1:10)、**悪事を働く者の道を歩くな。何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある**(箴4:14-23)と、悪事をはなれよ、知恵は命を守ると訴えています。

(二)と(六)は呼応して**よその女、滑らかに話す異邦の女**(箴2:12)を避け、**若い時からの妻に喜びを抱け**(箴5:18)と、妻との関わりを通して、祝福と名誉を大事にするようにとっています。

(三)と(七)は呼応して、**自分の分別に頼らず、また、自分を知恵あるものと見るな**(箴3:5)、**あなたの口言葉によって罠に陥らないように**(箴6:2)と、知恵を誇らず、謙遜であること、友人との関係における勇氣ある態度を教えています。

(四)と(八)は**力と慎重さを保って**(箴3:21)確かな道を行くように、**戒めは灯、教えは光。懲らしめや恥は命の道**(箴 6:23)と、へりくだって慎重になり、懲らしめを受けてこそ成長すると説いています。

そして、(九)は若い息子には常のことである女の誘惑へ陥ることの戒めとなっています。



「知恵の勧め」は4回登場します。この部分に非常に大きな輝きを感じました。

まず(一)では**知恵は巷に呼ばわり、広場に声をあげる。雑踏の街角で呼びかけ、城門の脇の通路で語りかける**(箴 1:20)と、知恵が、至るところで私たちに語りかけ、呼びかけ、その霊を注ぐと、知恵の働きの積極性と、広範囲な活動の場の広さを伝えています。その呼びかけを聞く耳を持たなければなりません。

(二)では**知恵によって得るものは銀より、金より、真珠より貴く、どのような財宝も比べることはできない。右の手には長寿を左の手には富と名誉を持っている**(箴 3:14)と、知恵を得ることによる得る豊かさ、貴さ、大きさを伝えています。

特に(三)では知恵自身が声を出して、呼びかけています。天地創造以前から、神と共にあったと、神の聖霊の働きであることを示唆しているのです。知恵が女性名詞として登場するのも素敵です。

わたしは知恵。熟慮と共に住まい／知識と慎重さを備えている。... わたしのもとには富と名誉があり／すぐれた財産と慈善もある。...主は、その道の初めにわたしを造られた。いにしへの御業になお、先立って。/ 永遠の昔、わたしは祝別されていた。太初、大地に先立って。/ わたしは生み出されていた／深淵も水のみなざる源も、まだ存在しないとき。/ 山々の基も据えられてはならず、丘もなかったが／わたしは生み出されていた。...さて、子らよ、わたしに聞き従え。わたしの道を守る者は、いかに幸いなことか。(箴 8:12)

最後に(四)で、(一)では浅はかな者、不遜な者、愚かな者が知恵を求めず、苦難に陥った時、あざ笑うと言っていたのに、彼らのために、準備の整った食卓を用意し、使いを出して、呼びかけ、だれでも立ち寄るがよいと、永遠の憐みと招きを示しているのです。

知恵とは何か。日本語の漢字が示す通り、知恵とは、神の恵みを知ることであり、神の前に生きることだと聖書は告げているのです。最後に、格言集では、怠け者よ、と叱咤激励し、再び**主を畏れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは分別の初め**(箴 9:10)と繰り返して教えています。